

交渉NEWS

東日本ユニオン東京地本 NO, 23 2020年 12月 6日

11月26日、申14号「TASC およびホームドアにかかわる精度向上を実現する申し入れ」の支社回答を受けて交渉を行いました。

10月9日から10日にかけて、中央緩行線代々木駅B線において「TASC」を使用しているにも関わらず50回を超える停止位置修正が発生しました。お客様に安全・安定輸送を提供するためにもまた乗務員の不安を解消するためにも早急な原因究明と対策実施を求めて、申し入れを行いました。

支社回答は、「引き続き状況把握していくとともに、関係箇所と調整していく。」と1行だけでした。事象発生から1か月半以上が過ぎているにもかかわらず、具体的内容は何もありませんでした。

『残念です』

労働組合からの申し入れに対して早急に対応して頂いたと言う点以外は、「残念」としか言いようがない支社回答・交渉となりました。

建設的な論議は望めない状況でしたが、否定的な状況を打開するために地本交渉委員は、問題提起を行いました。

《地本の問題提起》

お客様の信頼を失墜させる事象である
ちゃんと止まらない列車に乗りたいか
状況確認はいつ終わるのか
乗務員・職場管理者も混乱している
不安を抱えたままで仕事は出来ない
不十分な施策は中止すべきである
早急な原因究明と具体的な解決を求める

《支社主管からの意見》

お客様に迷惑をお掛けした
乗務員にも迷惑をかけている
「状況報告書」をもとに調査している
乗務員などに聞き取りを行っている
原因を確定し対策を立てることになる
スケジュール的には4ヶ月くらいかかる

『推定原因』をもとでの意見交換でしたが支社主管は、私たちの問題提起を十分うけとめて頂けたと感じています。

地本は、今事象の原因究明と具体的な問題解決まで取り組みを継続し、お客様の信頼回復と乗務員・管理者の不安解消に向けて施策の検証に取り組みます。



『納得して仕事をしたい!』と若い仲間は言っていました。

お客様の信頼を回復し、笑顔がふれる駅を創り、施策を検証し、乗務員・管理者の不安を払拭し、安全かつ安定した列車を提供する。この流れを継続することを私たちは追求していきます。